

経営比較分析表（平成28年度決算）

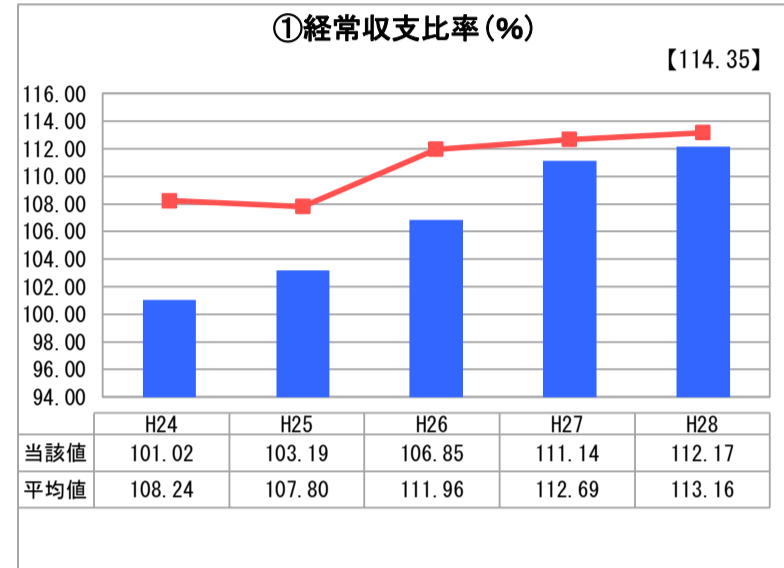
大阪府 四條畷市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	59.39	100.00	2,870	

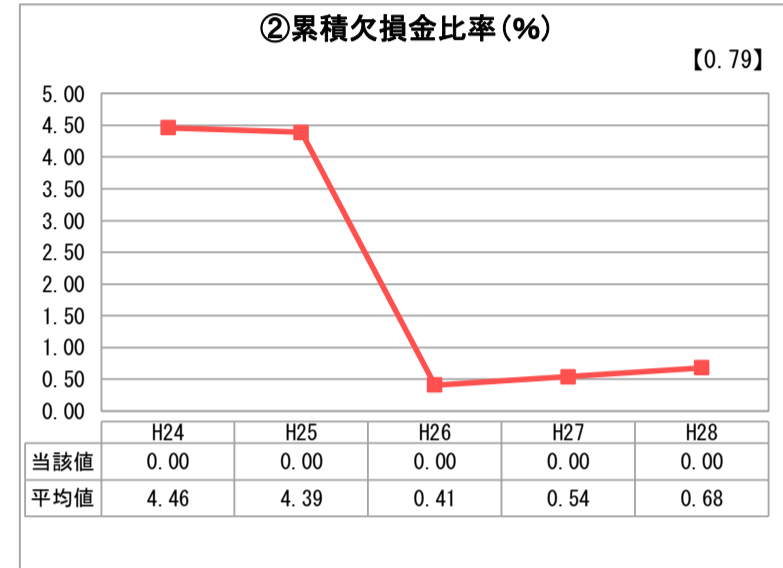
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
56,021	18.69	2,997.38
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
55,937	9.70	5,766.70

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成28年度全国平均

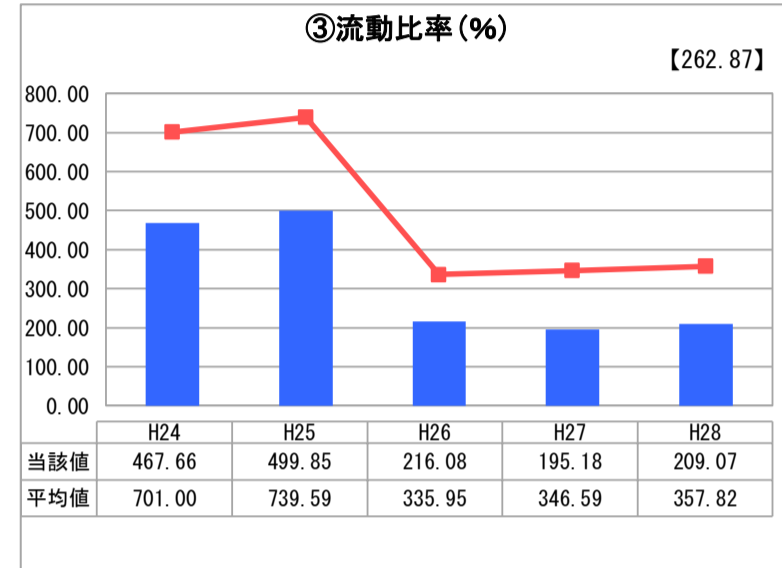
1. 経営の健全性・効率性



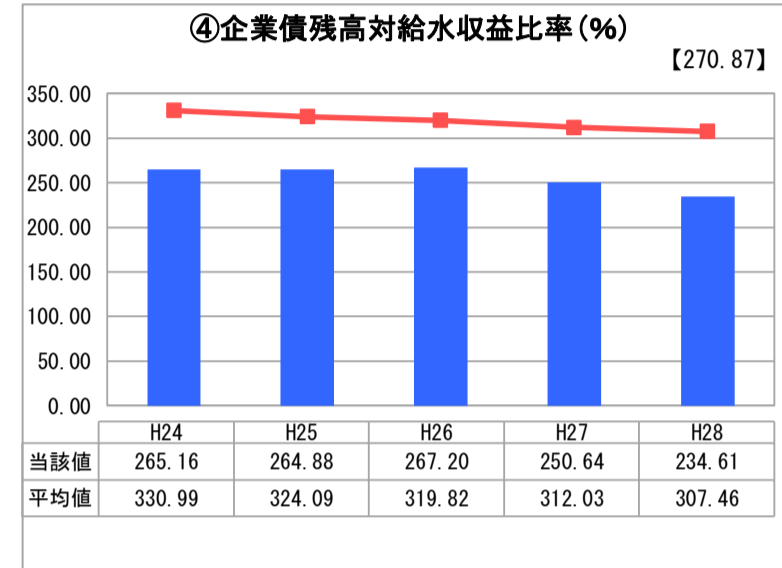
「経常損益」



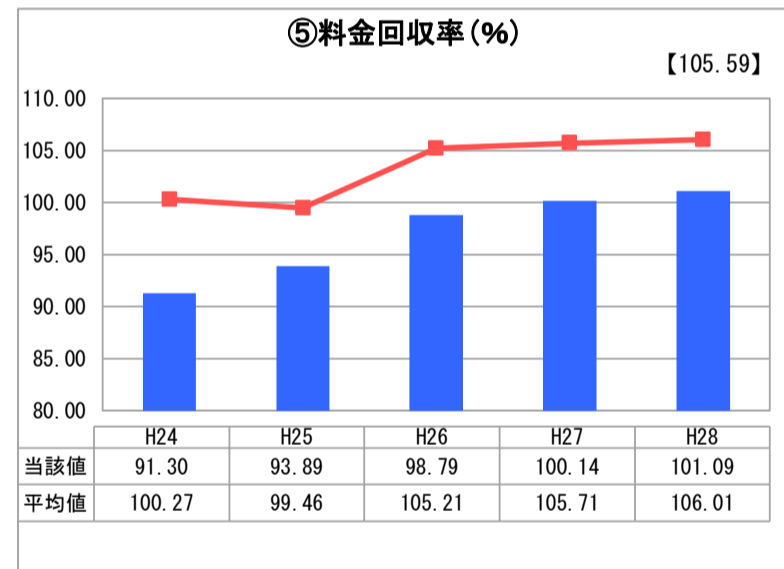
「累積欠損」



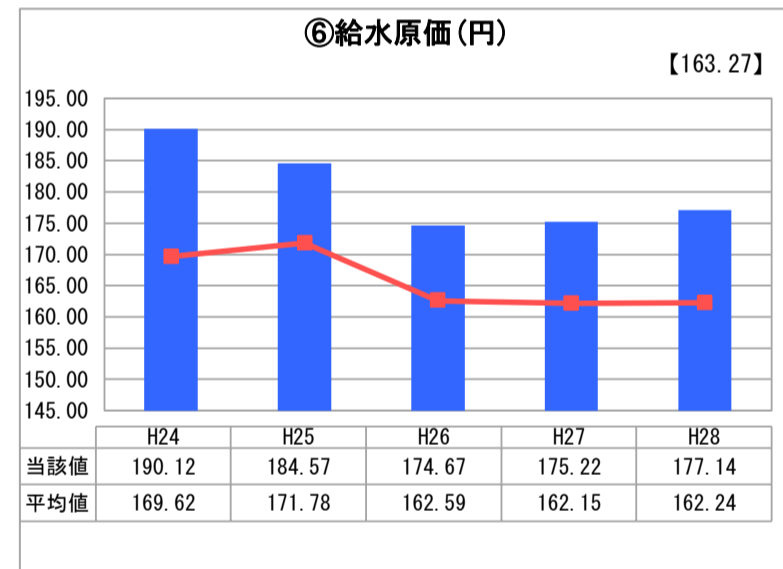
「支払能力」



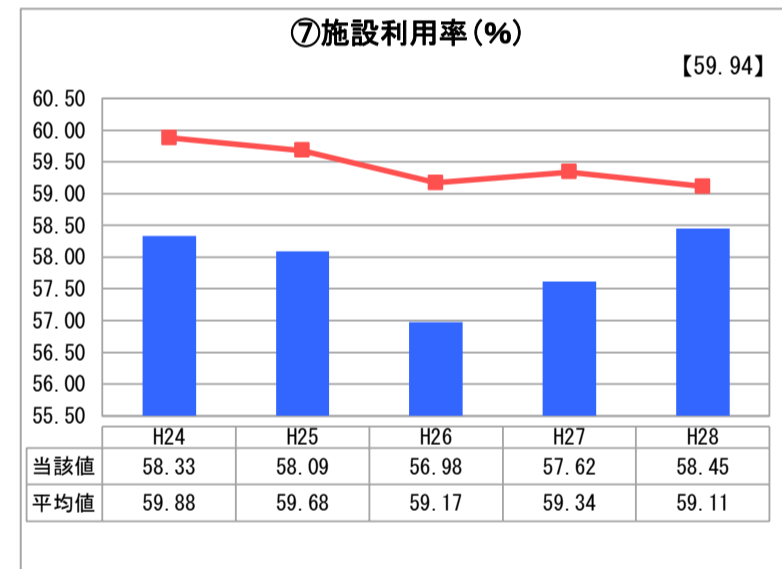
「債務残高」



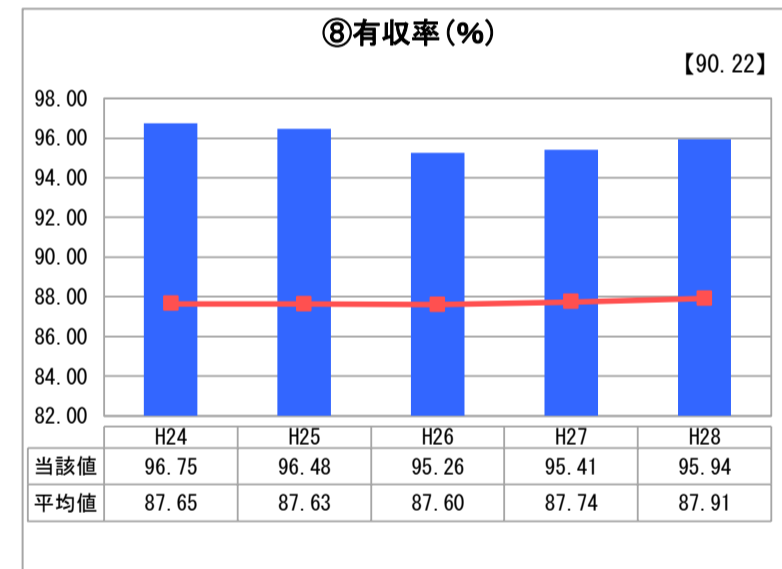
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

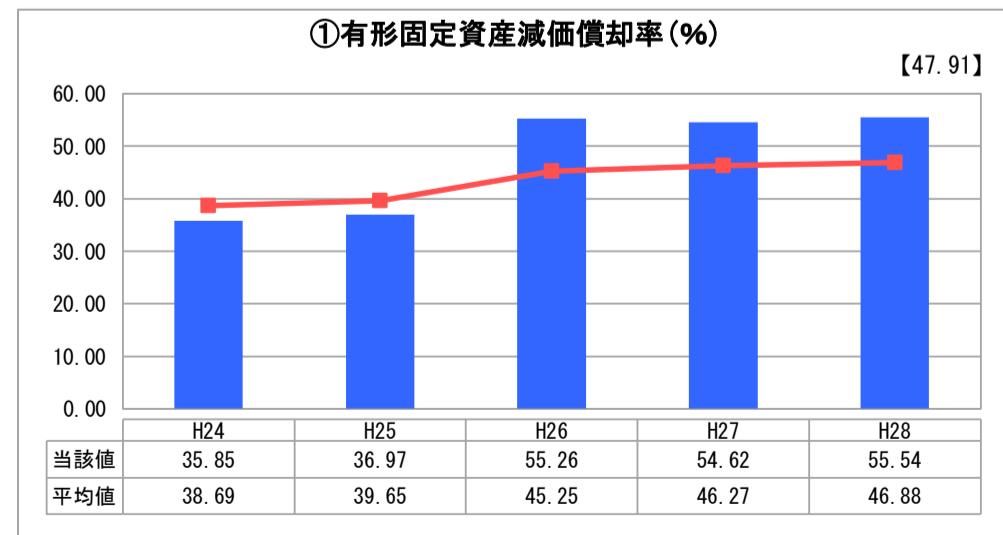


「施設の効率性」

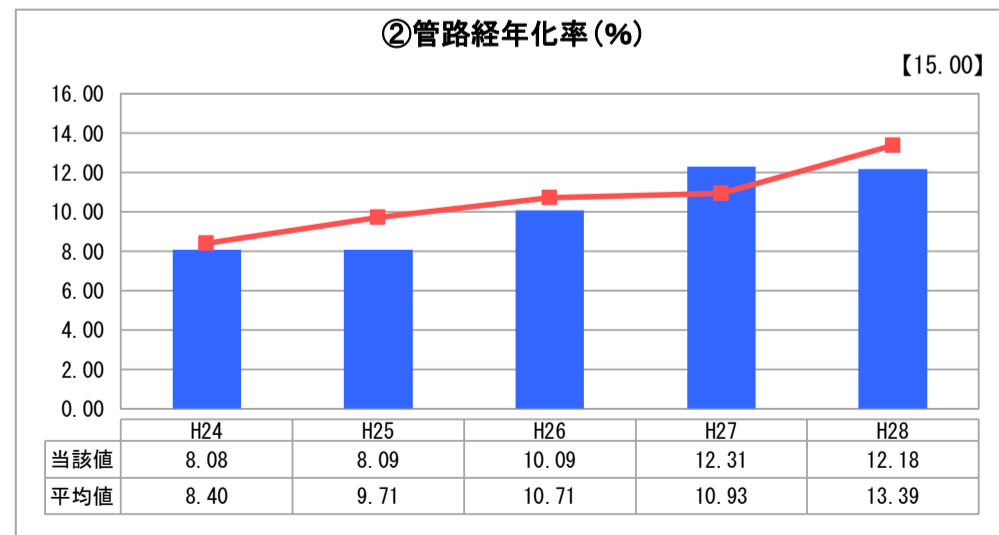


「供給した配水量の効率性」

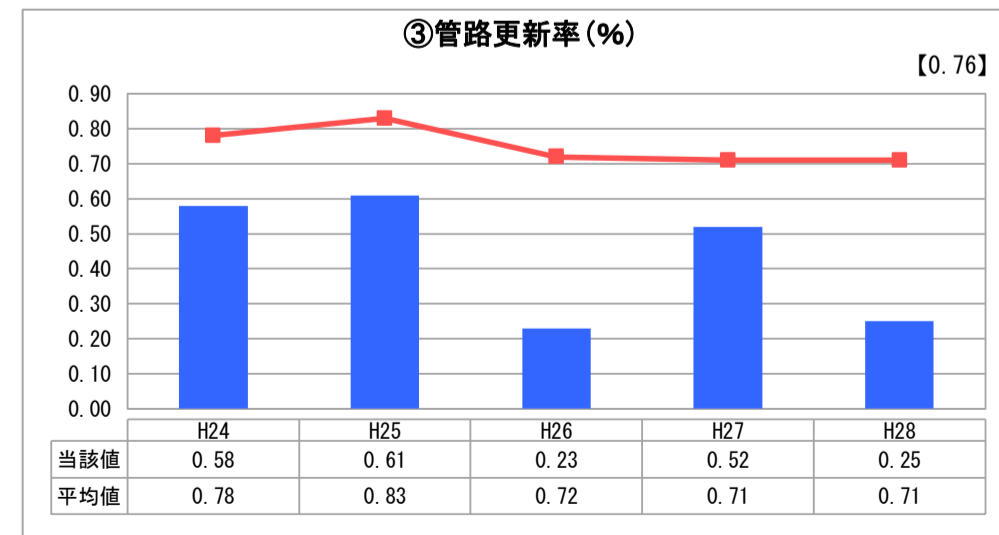
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率については、平成27年10月に開業した大型商業施設の収益が通年(前年度は下半期のみの効果)となったことなどにより、年々減少傾向にあった給水収益が増加し、営業収益が改善され類似団体平均値に近づけた。
 ⑤ 料金回収率については、経常収支比率と同様に大型商業施設の収益が通年となったことなどで、前年度に比べ給水収益が増加し、料金回収率が若干上昇した。
 ⑥ 給水原価については、地形等(飯盛山・北生駒山系)の関係でポンプ施設などの施設が他市に比べ多く、費用が高くなる傾向にある。
 ⑦ 施設利用率については、経常収支比率と同様に大型商業施設の収益が通年となったことなどで、前年度に比べ有収水量が増えたことに伴い、年間総配水量も増加し施設利用率が上昇した。

2. 老朽化の状況について

② 管路経年率については、高度経済成長期に布設した管路が現在、耐用年数を向かえており、耐震性能の低い管種を優先的に更新している。今年度の当市数値は、前年度と比べ横ばいであったが、類似団体平均値が大幅に増加したため、類似団体との比較では、下回った。
 ③ 管路更新率について、口径200mm以上の管路を主要幹線と位置づけ、耐用年数を経過した管路を優先的に耐震管への布設替えを実施している。今年度も更新計画のもとに管路の更新を実施したが、全体の事業計画のうち管路の計画が少なかったため、管路更新率が下がった。

全体総括

現在のところ、大型商業施設の開業で給水収益が増加しているが、今後、給水人口の減少、四條畷市交野市清掃施設組合の移転等により、経営は厳しくなると想定している。
 また、アセットマネジメントを用いた試算では施設の更新費用が今後40年間(H25～64年度)で109億6千700万円かかる見込みであり、これに基づき更新計画を進める必要がある。
 平成29年4月に大阪広域水道企業団と統合し、これにより、国の交付金を活用し、将来の水道料金の値上げを抑制することができるとともにスケールメリットを活かし、安全で安心な水を安定的に供給できると考える。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。